

Comment

The histologic detection of *Helicobacter pylori* in seropositive subjects is affected by pathology and secretory ability of the stomach

Helicobacter 23: e12482.

H.pylori の分布状況や菌量により結果が左右されることは広く知られている。*H.pylori* の分布は粘膜表面に存在する粘液層に影響され、腸上皮化生のみならず腫瘍部でも菌量が不均一になるため、腫瘍から採取した検体を *H.pylori* 存在診断に用いることは通常ないが、腫瘍組織生検において鏡検法の有用性が乏しいことを改めて指摘した検討である。考察では、癌の場合は偽陰性の可能性、腺腫の場合は自然消失の可能性が高いとしているが、その考察はやや説得力にかけける印象である。根拠となる追加生検（非腫瘍粘膜）の採取箇所は統一されるべきである。また、各組織の鏡検結果からギムザ陰性となるリスクに生検箇所は影響しないとしているが、それを主張する場合は、やはり 非腫瘍粘膜からの生検結果で論ずるべきであると考え。2007 年の胃と腸（胃と腸：Vol.42, No.6, 2007）において、根本らは全割胃の詳細な検討を行い、*H.pylori* 感染は腸上皮化生のない粘膜に広く存在するが、大弯・胃底部に近づくると非感染領域が混在し菌量が減少する傾向があるとする、topographical な検討結果を述べている。

（北海道大学病院光学医療診療部 山本 桂子）
